

第1回 中国圏広域地方計画協議会 議事要旨

日時：平成20年10月28日(火)10:30～12:00

場所：リーガロイヤルホテル広島

4階クリスタルホール

敬称略

1. 開会

(国土交通審議官)

- ・「国土交通大臣 挨拶」代読。

2. 議題

協議会会長の選任について

<協議会会長に広島県知事が選任された>

(会長)

- ・計画の策定に向けて、これまで昨年11月の意見交換会をはじめ、学識者会議などが開催され、中間整理案の検討が進められてきたところ。
- ・今後、これまでの議論を踏まえながら、本協議会において本格的な協議を進めて参りたい。
- ・中国圏の課題、ポテンシャルを踏まえつつ、中国圏の目指すべき将来像と、重点的に取り組むプロジェクト等について、皆様の忌憚のないご意見を賜りながら、幅広いご検討をお願いしたい。
- ・広域地方計画は、国と地方の協議によってブロック毎に特色ある戦略を描く新たな取り組みで、中国圏全体の持続的で自立した発展を目指し、協議会の皆様のご協力を賜り、会長の大役を務めさせていただきたい。

<会長より、会長代理として中国経済連合会会長が指名された>

中国圏広域地方計画中間整理について

中国圏の取り組むべき将来像の実現に向けたプロジェクトについて

- ・・・資料2、3、4説明(事務局)

<意見交換>

(鳥取県)

- ・中国地方の特性を考えると、近畿、四国、九州圏域と近いということで、密接であればあるほど中国地方の特色を出さなければ、存在感が無くなってしまう。
- ・対岸の国々とのつながりをこれから維持していきたい。例えば境港、島根県の浜田港、あるいは鳥取港など、対岸との航路の開設など具体的な話もあり、そういったことを力を入れていきたい。
- ・観光というものがこれから大きなキーワード、山陰文化観光圏あるいは地質構造の世界遺産と言うことでジオパークを目指し、ユネスコに推薦する候補の山陰海岸など、資料も出し

ながらお話ししたい。

- ・山陰側の道路の整備は非常に遅れており、ぜひお願いしたい。
- ・中国山地という背骨を中心として、過疎地域、中山間地域が非常にたくさんあり、そういったところに手だてをしなければ人がいなくなってしまうことから、生活基盤の整備が必要。
- ・アジアを考えると日本海も内海みたいな囲まれた海であり、日本海の漁業資源の整備、資源保護についても、計画の中に位置付けていただきたい。

(島根県)

- ・今後の北東アジア地域の経済的発展のポテンシャル、地理的な近さを考えると、中国圏全体の戦略として山陰側の拠点形成をしっかりと位置付けるべき。山陰側を北東アジアへの物流、人流の基地として、一定の産業集積を図る中で、中核都市圏としての機能充実を図る視点が必要。
- ・中山間地域の国土に果たす役割、機能を広域地方計画の中で明らかにしていく必要があり、地球環境への貢献、食料の供給、豊かな自然文化など、存在意義を明確にして、都市との支え合いで特色ある発展を目指すという位置づけが必要。
- ・山陰側は、道路通信網といった社会基盤整備が非常に遅れている。都市間を結ぶネットワークをきっちり整備することが、多様性を活かした交流連携のために、最も重要。特に高速道路ネットワークは基礎的なインフラですが、山陰側は遅れが目立っており、山陽側との経済的交流を進める上でも特に重要。

(岡山県)

- ・交流連携の交通・情報基盤強化で、是非とも本四架橋を含む高速道路料金の引き下げ、これをはじめとした効果的な利用策の検討に積極的に取り組むべき。「整備」ということになっているが、これに合わせて「活用」という視点からの取り組みも是非お願いしたい。
- ・中山間地域、限界集落対策、これは極めて国を挙げての重要な対策ではないか。もちろん具体的な取り組みは、それぞれの市町村、県レベルで取り組んでいくことが一つの前提ではあるが、様々な基盤整備や産業の振興策、最も大切な基幹の産業となる農業・林業といった面については、国を挙げてしっかりと支援をしていただくような仕組みを是非お願いしたい。
- ・岡山市の政令市移行について、10月16日付けで政令が公布され、来年の4月に全国で18番目、中国圏では広島市に続きまして2番目の政令市になることが正式に決まったところ。この政令市移行にともなって、イメージや知名度の向上、ビジネスチャンスの拡大ということが期待されることから、こうした効果を最大限に活かして、中四国両圏域における拠点機能の充実に努めて参りたい。岡山市は中四国をつなぐ総合福祉拠点都市の創造ということを目指しており、是非とも広域地方計画においても、中四国の連携の拠点としての位置づけをお願いしたい。
- ・岡山県では、観光立県宣言を10月1日に戦略の策定をしたところで、瀬戸内海の環境保全の取り組み、活用という観点から、瀬戸内海ブランドの構築ということが掲げられており、広域観光の取り組みなど、瀬戸内海の地域全体を国内外に強くアピールすることができるような、そういったところにもっと力を入れていただきたい。

(山口県)

- ・計画の期間が今後10年間ということから、道州制への移行をにらんで、県という枠組みが

無くなっても、将来にわたって自立できる中国圏域の形づくりに向けて、進むべき方向や取り組みの筋道を示すものでなければならない。

- ・中国地方は、大小多くの都市の周辺に中山間地域が広がり、それぞれの地域が産業や文化など多様で豊かな資源を有しているという強みや特性を活かしながら、圏域内外との陸海空の交流連携のネットワーク、情報通信ネットワークを一層強化して、圏域全体の一体的な発展につなげていくことが重要。
- ・陸についての最重要課題は、山陰地域を広域的に結ぶ山陰道の整備促進である。山陰道は、九州圏域との交流連携によって発展を考えることも重要になってくるので、この計画でももっとも重点的に取り組むべきプロジェクトの一つではないか。
- ・海については、物流システムの変化に応じた計画的、重点的な港湾整備が喫緊の課題であり、中国圏域全体での各港湾の位置付けというものも今後重要なテーマになってくるのではないか。特に国外との物流拠点として整備をすべき港湾については、さらなる民間活力の導入拡大を含めて、対策を是非検討していただきたい。
- ・空については、山口県においては岩国基地の民間空港の早期再開に取り組んでいる。これも重要な基盤の一つになってくるので、是非実現をしなければならないと思う。
- ・もう一つ重要なのは、情報通信環境の整備促進である。中国圏は中山間地域を多く抱えており、山口県だけを見ても、携帯電話の不感地域がまだまだ多いという状況にある。ブロードバンド環境の拡大、携帯電話の不感地域の解消等、情報格差の解消対策を急ぐべきではないか。

(会長：広島県)

- ・それぞれの地域が自立し、圏域全体が一体感のある中国圏を形成するためには、産業の振興を図るとともに、それを支える交通基盤を整備し、中国圏全体の時間距離の短縮を図ることが重要。その中で山陰は高速道路ネットワーク等の高速交通基盤の整備が遅れており、産業や住民生活の利便性向上の観点から、山陰自動車道や陰陽を結ぶ中国横断自動車道尾道松江線等の高速道路ネットワークの早期完成が望まれる。また、中国圏として国際経済交流の推進や、外国人観光客の誘致、グローバルゲートウェイ機能の強化等、東アジアをはじめとする世界との交流連携を促進していくことが重要。
- ・中山間地域の維持・再生について、新たな過疎対策を県の重点分野の一つとして位置づけ、医療、産業・雇用、生活・福祉など幅広い分野で、緊急性や事業効果が高いと認められる対策に取り組んでいるが、中・長期的な視点に立つと、県全体を支える過疎地域の公益的機能に着目し、直接給付制度等により、地域を維持する担い手の生活を支える仕組み等の検討が必要。
- ・これからの地域づくりには人づくりがなによりも重要。とりわけ、ものづくり産業を支える人材を育成・確保するため、広域的な人材の確保や産業の国際競争力強化のための人材の育成が重要と考えており、高度な産業人材の育成・確保に重点的に取り組んでいく。
- ・各広域ブロックの地域特性を踏まえた、独自性のある地域戦略を立案するためには、地域づくりの重要な担い手である地方公共団体が、自らの選択と集中のもとに地域経営に必要な施策を行うことができる地方分権の推進が極めて重要。市町村合併が最も進んでいる広島県においては、地域住民の主体的な参加による住民自治システムの構築と、その担い手となる

地域づくりリーダーの育成・確保など、分権型社会づくりの基盤となる人づくりに取り組んでいるところであり、分権型社会づくりの観点も含んだ計画づくりを進めて頂きたい。

(広島市)

- ・広島市の中でも中山間地の問題はあり、例えば、生徒数が10人程度という学校のある地域がある。また、市内の団地の中には高齢化率が非常に高くなっているところもある。
- ・基礎自治体レベルでも広域連携を進めている。例えば、広島県と山口県にまたがる13の自治体で広島広域都市圏形成懇談会を組織し、職員の相互派遣、共同研修、圏域内のイベントの情報紙の発行、ホームページの運用、カープやサンフレッチェへの支援といったことも進めているし、太田川の流域の関係自治体と連携した水質保全、自然環境保全の取組なども行っている。自治体レベルでも独自に連携を進めていることと、住民がそれに参加しているということで、住民参加型の連携を進めているというようなことも、取り込んで頂ければと思う。
- ・地球温暖化の問題、エネルギーの問題、これは中国圏だけでなく全国の問題だが、広島市は、2050年までに70%の二酸化炭素の排出量の削減を目指す、カーボンマイナス70という取組を今年から進めている。これは行政だけではなく、事業者の方々、市民の方々と一緒になって、役割を分担しながら進めていくことを考えている。例えば、スーパーマーケットと連携し、買物袋を持参することや、電球を省エネ型の電球に取り換えていこうということもやっている。自治体レベルだけではなく、住民レベルでやっているということを書いていただければお願いしたい。

(中国経済連合会)

- ・これまで、中国地域は東京を経由し欧米、その他の諸国との関係を持つことが多かったが、これからは環日本海圏との地理的優位性を活かし、直接連携を強化することが重要。特に山陰地域は歴史的に関わりの深い東アジアや環日本海のダイナミズムを取り込むには絶好の場所に位置しており、山陰自動車道や中国横断自動車道、さらには境港、浜田港など、道路と港湾の一体的な整備が実現すれば、アジアの有力な窓口となる可能性も高いため、「北東アジアゲートウェイプロジェクト」を重要プロジェクトとして位置づけることが必要。このような取り組みを中国地域が一体となって押し進めることにより、地域全体のポテンシャルが高まり、長期的には陰陽格差の解消につながると考える。
- ・今回の計画は今後10年間を想定しているが、実際にはこの期間内に現時点では想定できない環境変化が生じるであろう。しかし、このような厳しい環境変化に柔軟に対応し、全国の計画の実効性を最も担保するのは、突き詰めてみれば「人材」ではないか。そういう観点より、高度人材の育成を担う大学の役割はますます重要となってきた。中国地域は約50の大学があり、幸いにも所在都市の特色を活かした世界的にもユニーク、先端的研究が存在している。このような特色を活かしつつ、機能分化と連携を強化することは、地域人材の育成高度化、さらには域外からの人材の誘致という観点でも有効。
- ・観光は地域の総合力を高めるとともに、連携することで相乗効果を生み出すもので、新たな成長産業として有望視される中、地域を挙げて振興していくことが益々重要。加えて、他ブロックとの積極的な連携も必要。石見銀山の世界遺産登録により、中国地域の世界遺産は3カ所となり、申請中の鳥取の三徳山、岡山の閑谷学校、後樂園、山口の錦帯橋等の各県の

観光地と合わせることにより、域内の回遊性の向上に寄与するものと期待。また、インバウンド観光においては、韓国、台湾、香港などからの観光客には、日本文化への理解も深まるとともに、直接日本文化を体験することを求めるなど、観光目的に変化が見られると聞く。この期を絶好のビジネスチャンスとしてとらえ、中国地域全体が連携して、外国人観光客誘致受け入れの体制を整備することが必要。

(中国地方商工会議所連合会)

- ・今後、中国圏の持続的発展のために広域地方計画の策定、実行にあたり、中国地方 51 商工会議所としても協力。

(岡山市)

- ・来年 4 月 1 日から政令指定都市に移行することが決定したため、今回から本協議会に参加している。
- ・岡山市は政令市となって、中四国をつなぐ総合福祉の拠点都市という都市像を掲げており、中枢中核都市として、中国地方の発展に貢献していきたい。また、中枢中核都市に整備するためには、インフラ等の整備がますます重要となる。
- ・高速道路の整備だけでなく活用を図れるような形で、交流連携の推進を図りたい。都市政策の観点からいうと渋滞解消という面に非常に効果がある。昨年 2 号線の工事をした関係で、高速道路を半額にするという社会実験を行ったところ、相当の効果がでた。そうした観点からもまだまだ活用の余地があるため、高速自動車道網の活用を入れて頂ければありがたい。
- ・岡山市は来年度、農水省の補助を受けて B D F 事業に取りかかりたいと思っている。使用済みの食用油を家庭や事業所から回収し、バイオディーゼル燃料として再生する。それを市の保有する車の燃料として活用していくという循環型のサイクルを確立する事業により、環境にやさしいまちづくりを岡山市は目指しているため、そうした点についても付記いただければありがたい。

(北九州市)

- ・海峡部における交通基盤の整備では、中国圏と九州圏をつなぐ軸を強化することにより、さらなる交流が生まれ、広域的な連携が可能となる。また災害に際しても、広域的な支援体制を高めることが必要である。そのためにも、リダンダンシーという視点が不可欠である。関門国道トンネルは今月 15 日から 60 日間の全面通行止めにより老朽化に対する補修工事が行われており、約 7 万台 / 日の車が関門橋を通行しているが、これが強風などの天候不良で橋が通行止めになると、中国と九州を結ぶ物流が止まることになる。産業活動に多大な影響を及ぼすことは明らかである。これからは、施設の老朽化への対応だけでなく、更に長期的な視点に立って機能の補完を考えておくことが必要である。全国計画では、「海峡部を連絡するプロジェクトについては長期的視点から取り組む」と記述されており、中国圏の計画においても、「関門海峡道路」の位置づけが必要と考えている。
- ・観光における広域的な連携については、例えば山口県、広島県など中国圏の空港に入ってきて、北九州や宮崎など九州圏の空港から出る観光ルートなど、新たな商品開発が考えられる。また、2011 年春の九州新幹線の全線開通により、新大阪から鹿児島まで直通運転されることになり、両圏域の時間距離が非常に短縮される。中国圏の計画においても十分これを踏まえて策定することが必要である。

- ・中国圏、九州圏とも、育った人材が活躍できる場が少なく、人材が流出するという共通の課題を抱えている。この地域に人材をとどまらせる必要がある。例えば、ものづくり産業で活躍できる人材の育成、そして人材交流を進めるなど、それぞれの地域で育てている人材を相互に活用し合う仕組みづくりが必要である。また、地球温暖化の問題、低炭素化社会の問題が挙げられているが、九州圏域では北九州市と水俣市の2都市が環境モデル都市に選ばれており、人材、経験も豊富なことから、そういった人材の交流もできるのではないかと。

(総社市)

- ・中国圏域がさらにレベルアップするためには、東西軸も強化しなければならないが、南北軸を更に強化する必要がある。四国を巻き込むことによってさらに中国圏がレベルアップしていく。南北軸の強化だが、全国新幹線鉄道整備法に基づく基本計画路線として中四国の横断新幹線という路線が決定されているが、今の路線に加えて、さらにこの路線を有効に使いながら、ミニ新幹線などの新幹線構想をもう一度考えてみてはどうか。さらに、縦軸の高速道路網の4車線化。これを速やかに行うことによって、中国5県が四国を抱きこむことによって更にレベルアップしていくのではないかと。
- ・現在岡山空港はアジア便、グアム便と合わせて盛況を極めているところだが、南北軸の更なる強化により岡山空港が拠点性を持ち、中国圏から世界に向けて飛び立つことが可能になるのではないかと。
- ・岡山県は水島というアイテムを持っているが、更に大型タンカーなどの乗り入れを可能にすることによって世界に出ていくという戦略が一つあるのではないかと。
- ・岡山、総社、倉敷というトライアングルを軸とした南北軸、東西軸の連結として基盤整備をお考え頂ければありがたい。

(萩市)

- ・山陰自動車道が山口県で7.1kmがやっと開通。是非、鳥取から下関まで早く開通していただきたい。山陰自動車道は貿易などの観点から絶対に必要。
- ・私どもは小さな町だが貿易港があり、下関、萩、浜田、境、そして舞鶴、小さい町は小さいなりに貿易機能を持っている。貿易港であるから観光船が入港する。米国、カナダの観光客を乗せて釜山へ行っている。そういったことが可能。
- ・JRの山陰本線は、かつては貨物列車も走り、特急も快速も急行も準急も走っていたが、今は下関に行く便が益田からたった1便。せっかく基盤としてあるJR山陰本線が活用されていない。鉄道の、せっかく設備投資をされたものが活用されるように触れていただきたい。
- ・高校の卒業生が600人弱のうち残るのが1割。若干は帰ってくるがほとんど帰ってこない。日本海側の町で同じような状況にある。人材確保・育成を考えた時にお願いしたいのは、職業教育としての高校教育で、農業高校、工業高校などが、地場の事業と連携しなければ、中山間地域の農業の明日はないのではないかと。県立の農業大学の卒業生はできるだけ農業へということで大変な努力をいただいているが、そのような点を含めて、人材確保という観点を入れていただきたい。
- ・分権を目指した基礎自治体。身近なところで決定できる主体としての基礎自治体の表現を書いて頂ければ。また、できれば市長会へもある段階で文書を投げて頂ければありがたい。

(安芸太田町)

- ・中山間地域について多面的な扱いを頂いており、深く感謝する。しかし、昭和30年代からはじまっている、いわゆる過疎対策の結果が現状であるという認識からすると、やはりその繰り返しはしないという観点からまとめていただく必要があるかと思う。過疎が止まらない、インフラが整わない、医療が崩壊している状況が生まれており、農業・林業が現状の経済の仕組みに載るような採算性がとれるようなものではない。そういう観点から、もう一つ立ち入った、限界集落とまでは言わないが、過疎という領域の表現を取り組むことができないか。1次拠点から30分や40分も、それも雪が降ったり、災害が起こったら交通が遮断される集落がたくさんある。もう一步進んだ、過疎対策を取り入れて頂ければありがたい。

(中国経済産業局)

- ・先日、海士町、隠岐諸島の離れ小島に行った。島全体の産業振興をしていこうということで、第3セクターを作って、瞬間冷凍技術の会社を作り、旬の物を一瞬にして凍結して、高い値段で売れる所に出荷している。その結果1ターン組が93世帯来ている。やはり農商工連携ということで、中山間地や離島でも産業をまだまだ興せるチャンスがある。担い手はいるが、外の力を借りながら、島全体を興していくチャレンジをしている。役所の中の連携をしていただいているが、民との連携、産学官連携、まさに地域で連携をしていけば世界にも伍していけるという感じを受けている。

(近畿中国森林管理局)

- ・この圏域の国土の7割が森林がカバーしているという状況だが、この森林資源は徐々に資源が充実している状況で、逆に利用しないと駄目になるという状況になっている。したがって、この資源を有効利用するということが中国山地の産業活性化につながるのではないかと。九州圏にも重要な役割を果たしているのも、間伐、バイオマス、多面的な利用がまだまだ可能なものがある。その辺りを少し取り上げていただければありがたい。

(会長)

- ・ただ今、皆様から頂いたご意見に対して、事務局から説明をお願いしたい。

(事務局)

- ・中間整理案全体の構成については概ねこの方向でということで、それを前提にご意見を頂いたかと思う。具体的なご意見を多く頂いたので、今後幹事会等で調整し、計画の反映について検討させていただきたいと思う。
- ・市長会へという話もあったが、今後いろんな方々の意見をお聞かせいただきたいと思います。よろしく願いしたい。

(会長)

- ・それでは、本日頂いたご意見については、幹事会等において調整し、とりまとめるということによろしいでしょうか。どうもありがとうございました。
- ・議事その他について、事務局から説明をお願いしたい。

(事務局)

- ・・・今後のスケジュールについて説明

(会長)

- ・本日の全体を通じて、ご意見、ご質問等ございましたらお願いしたい。

(オブザーバー：国土計画局)

- ・各地域の特性を活かして、各地域の発想で作成していただきたいと考えており、その具体化に際して、国としてもできるだけの応援をしていきたい。

(会長)

- ・過疎の集落をご覧頂くときには是非冬季にもご覧頂きたい。除雪が出来てなくて通れない、老人ばかりで屋根の雪を下ろせないなど、非常に深刻な問題が数多くある。
- ・これで全ての議事が終了した。皆様のご協力ありがとうございます。

3. 閉会

(中国地方整備局)

- ・本日多様な切り口からのご意見を頂戴してありがたく思っている。これをきっちりとりまために活かしていきたい。
- ・今後、地元より地域に入って、市町村長、学識経験者の意見を頂く場を用意しているので、意見をきちんと整理していきたい。
- ・最終的には中国地方全体の統一的な目標づくりをやって、ある意味では県境を意識しなくて済むようなビジョンにまとめていきたいと考えているので、引き続きよろしく願いしたい。

- 以上 -